

# 金新郷土芸術賞に輝く

## 受賞者の横顔

□上□

り十年ほど前に退職。現在は自宅のアトリエで制作のかたわら、児童の絵画教室も開いて七年になる。「大らかな子供の作品には教わる点が多い。それに何より子供が大好き」と娘を輝かす。

姿勢を、我が子や生徒たちに見てもうえれば。でも自分では夢を追うロマンチストのつもり」夫の良利さんは朝陽小教諭、妻であり二女の母であり、絵画の先生と多忙な毎日だけに、マイペースでの制作

六十二年度釧新郷土芸術賞の受賞者が決まった。絵画部門では吾孫子雄子さんが女性として初の受賞、音楽部門では市内で数少ない女性のハープ奏者として活躍する板本絹子さん、また彫刻部門からは阿寒湖畔に在住して自然の素材を生かした制作を続ける滝口政満さんの三人に贈られる。二十一日の贈呈式を前に、そのプロフィルを紹介する。

自宅で児童の  
絵画教室も

つたが、今日まで川瀬善衛さましを受けてきた。「芸術賞をいただけるのも、こうした方いきたい」と強い意欲を見せん、藤村正豪さん(故)、木下勘二さん、扇谷章二さんなど多くの先輩、友人の指導と励ましを受けてきた。

## 子弟の絵画教育に情熱

女性らしい感性で“人間”追求

がたによる温かい力添えのお  
かげです」と吾孫子さんは感  
謝と喜びをかみしめる。五十  
九年に大作中心の油絵個展を  
初めて開いたが、「みんなの  
“がんばりなさい”の激励が  
何よりうれしかった。こそし  
ばらくは“人間”を追求して  
「もっと人間を追求した  
い」と吾孫子さん

日高管内三石町の出身で教  
員を志したが、東京の証券会  
社に勤務中、釧路管内で教員  
を募集中の一報に接し来釧。  
「三十九年のこと、ロマン  
チックな釧路の霧が忘れられ  
ず、あこがれの地の土を踏め  
た」という。これがいわば吾  
孫子さんの人生の転機だつ  
た。標茶小にまず赴任、次い  
で市内湖畔小、寿小などを回

にも出品し入選六回。「落選しても、後には引けないとばかり、根性で乗り越えてきた。ヘタでも何かを追求するこの

たかなとの感慨を抱けるようになつた。これから生きていく若い子供たちのためにも、良い仕事をしていきたい」と吾孫子さんは決意を新たにしている。

## マイペースを 制作モットー

にひかれる近年でこれからが  
自己の作品に磨きをかける充  
実期にしたいという。  
来釧して二十年。「やつと」  
こ数年、アーチン路市民になつ

たかなとの感慨を抱けるようになつた。これから生きていく若い子供たちのためにも、良い仕事をしていきたい」と吾孫子さんは決意を新たにしている。

# パレ君

木崎征夫



吾孫子雄子さん

絵  
画

—釧路市武佐1の51—

